

# KOCHI 2024 ROTARY 2025 CLUB SINCE 1937



## 週報



Weekly report 第3608回 2024年10月15日 2024年10月29日発行

### ● 会長挨拶

皆さん、こんにちは。昨夜、外を見るときれいなお月様で、あと2日で満月です。グレゴリオ暦を制定したことから、12日目になると月は水瓶座に入るということで、水瓶座の方にはとてもいいことがあるのではないかと思います。

【満月の中で、水瓶座で起こる満月は、博愛精神に満ち、人を社会的かつ友好的にすると言われていて、年齢や性別に関係なく、分け隔てのない真の友情が育つそうです。今年8月20日が水瓶座満月で、2024年最初のスーパームーンでした。】

あさつての満月も、スーパームーンだそうです。ご夫婦で乾杯をして語り合っていたら嬉しいと思います。



### ■ 本日のプログラム [10月29日]

新会員スピーチ

日本銀行 高知支店長 永幡 崇 会員  
「当支店の機能と高知経済」

会 長	中 島 和 代
副 会 長	宮 田 速 雄
幹 事	入 交 英 太
副 幹 事	松 崎 郷 一 郎
会報責任者	岡 内 聡 典

● **ロータリーソング** 「それこそロータリー」

● **新入会員紹介**



● **山本文康氏挨拶**

この度、伝統と格式ある高知RCへの入会をご承認いただきありがとうございます。

私は昭和52年生まれ47歳です。父の仕事の都合でアメリカに行き、日本人が誰もいない学校に入って、一人サバイバルで4年間過ごしました。大学は明治大学です。趣味は会社に入ってからゴルフを始めました。また、会食が増えた時期があり、ランニングをしていますので、龍馬マラソンにもエントリーをしました。

前任は愛知県の豊橋支店で、野村証券に入社して7回転勤していますが四国は初めてです。プライベートでも四国に旅行に来る機会がなく、高知が四国初上陸です。おそらく3年以上はこちらで勤務すると思いますので、できれば高知を楽しんで、第二のふるさととしたいと思います。まだ、高知について知らないことが多いですが、皆さまのお役に立てるように一生懸命がんばりたいと思いますので今後ともご指導、ご鞭撻をよろしくお願いします。



● **幹事報告**

- 理事会の議事録をボックスに入れてありますので、確認をお願いします。1点、会費の増額について、現在検討中です。最終的には総会で諮りますが、昨年度も単年度では赤字でした。三翠園さんからも新年度より価格改定の申し入れが来ており、現状致し方ないかと思います。一方、当クラブの会費は1994年から一度も改定をしていないこともあり、増額の方向で検討を進めることを記憶に留めておいていただきたいと思います。
- 例会の事前出欠確認をしています。皆さんにご協力いただき助かっていますが、一部、出欠の連絡がない方もいます。今後の経費削減も含めて考えていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いします。
- 今週土曜日、今治RCと宿毛RCの周年行事に参加予定の方は、忘れないようお願いします。
- 来週、10月22日の例会は休会です。







## ● ゲストスピーチ

### これからの高知市

高知市市長 桑名 龍吾 氏



昨年11月26日に高知市長選挙がありました。票差はわずか2,000票差で接戦でしたが、この選挙で大きな課題が見つかりました。マスコミの報道では、桑名対岡崎は高知市を2分する選挙になり、事前調査では88.4%の方が関心があるとのことで、私もその実感はありましたが、投票率を見ると何と40%、前回の市長選挙よりも低かった。さらに、半年前に行われた市議会議員選挙は、まだ低くて35%でした。

皆さんにとって、一番身近な政治は市政であって、県政や国政よりも関心を持ってもらわないといけません。私は11月30日、初登庁のとき全職員に、我々は一生懸命市民のためにやっているつもりかもしれないし、やっているだろうけれども、年々年々投票率が下がるのは、市民の皆さんと我々の思いが裏腹で、市政に関心が持たれなくなっているのではないかと。だから、市政に関心を持ってもらって、次の選挙では投票率を上げること。これに私は4年間を費やしていきたいし、皆さんもそういった思いを持って、自分たちの思いだけを言うのではなくて、相手のこともしっかり受け止めて、心のキャッチボールができるように、市政に関心を持ってもらうように心がけてもらいたいということをまずお話をし、今でもずっと語りかけています。

高知市役所は正職員2,800人、会計年度職員2,000人、合計5,000人という大きな組織で、今の状況では高知市だけで高知市を動かしていくのは無理です。やはり、県市連携、もしくは県市一体でなければなりません。昔から、県庁と市役所の間のお堀は深いとか、広いと言われていたのですが、昨今は、革新市政が続いたときよりはうまく連携が取れていると思います。特に岡崎市長と尾崎さん、岡崎市長と濱田さんと、トップ同士はしっかり連携が取れていたと思いますが、職員同士にはまだまだ溝があります。

私が入ったときには、まだ「県がこんなことを言ってきました」みたいな感じで、ここをどう埋めるのか苦心しました。そこで、大胆な人事交流を、濱田さんと阿吽の呼吸で行いました。現在、高知市の副部長を県の副部長職に、県の課長を高知市の政策のど真ん中に配置しています。また、濱田さんから「県からは将来の副知事候補を送り出す。市の方も考えてくれ」と言われたので、高知市も将来の副市長候補になるぐらいの男を出さなければいけないと思っています。

我々は県庁所在地ですので、県と同調していかなければ

ならないし、我々の声も聞いてもらわないといけません、ありがたいことに、今は県がどのような考えを持って進めているのかといった情報がタイムリーに入ってくるようになって、補正予算を打つときも遅れることなく事業を作っています。県としても、人口の半分が高知市にいますので、高知市が使わないような事業は作っても成果が上がらない。ですから、高知市の意向、私がどう考えているか、ダイレクトに県に伝わっている状況です。

もう一つは国との連携です。私は公約で、副市長に女性をとってきました。私の中にあっただのは、総務省の行政系の方ということです。産業部門等々は部局内で補えますが、私自身、行政の経験がありませんので、財政運営等を考えて、総務省の自治系の方を希望していました。ただ、これはハードルが高くて、30万ぐらいの都市に総務省のキャリアの方が来ることはめったにありません。濱田さんにもお頼みをし、私も12月に総務省に行って、事務次官やその他を回って、今の神谷副市長に来ていただいたところです。神谷さんは36歳の若さですが、既に秋田の財政課長や男女参画の課長も務めておられますので、これからの高知市にとっては、とてもありがたいことです。

国・県・市のこの筋をさらに太くするよう、今、縦の線を作っています。また、県にも今、総務部長、財政課長、市町村振興課長など総務省の行政系の方がいらっしゃいますので、神谷副市長との連携も取れていろんな情報が入ってきます。特に石破政権になって、この選挙が終わると地方創生の交付金を倍増するといった話があります。まだ内容は漠然としていますが、その情報があれば県にしても高知市にしても、遅れることなく事業化に取りかかれますので、私にとってはありがたいことです。さらに、総務省からは、県と県庁所在地の仲のいいモデルをつくってほしいと言われていて、高知市に向かっていろんなエールをいただいています。

ただ、高知市だけが発展をするようなことでは均衡ある県土はつくれません。高知市は、県下のその他の33市町村の兄貴分になって時には牽引をしなければならないし、時には後押しをしなければならない。私は今、高知県の市長会の会長を務めています、これからは、県内の町村会長会とどういう連携を図って、一体的に高知県を押し上げていくのかといったところも、太めていかなければならないと思っています。これが横の線です。

この縦と横ができたら、次は扇です。これが市民の皆さん、事業者の方々との連携です。この1年、私も各経済団体の皆さん方から、いろんな事業をいただいて作ってきましたが、実は作った事業がまだ使われていない、知られていない実態があります。経済界の方たちは、作ってもらいたいと言っただけで、ひよっとしたら終わっている。我々も、作った

だけで終わっている。それをもう1回、事業者の中に下ろしていくのか、下りていくのかを、現在、検討しています。

先般、高知県でも活動している、起業家の皆さんが来られていましたが、彼らも同じ悩みを言っていました。国や県、市がいろんな事業をするけど、小さな会社ではどんな事業があるのかなかなか分からない。そういったものを下ろしてもらえると、これは使えるんじゃないかというものもあります。今、高知市から、そのグループに入って意見交換をしています。起業家の皆さん方も、行政にどういったものをつくってもらえたら、自分たちも使える事業になるのかということ、逆に上げてきてください。我々は、できたらそれを皆さん方に、またフィードバックするというように好循環を図っていくことも、今までの高知市政ではなかったのではないかと思います。高知市の職員が皆さん方のところに行って、話を聞きながら、また戻していくという循環をつくらなければならないなと思っています。

縦ができて、横ができて裾野が広がって富士山の形になる。そんな骨格を描きながら、これからの市政を続けていこうと考えているところです。

高知市の課題は様々あります。一番はやはり人口減少問題です。昨年、私が市長になったときは31万6,000人でしたが高知市では毎年3,000人が減少しています。高知県では9,000人ほど。3,000人というのは、奈半利町、大豊町、本山町、檜原町、この一つの自治体が毎年高知市から消滅していることと同じことです。これは総人口の1%以上という、本当にショッキングな数字で、このままいけば、令和6年度は4,000人の人口が減るという勢いです。自然減はなかなかコントロールはできませんが、高齢化社会を支える人たちが高知に残ってもらわなくてはいけない。そして、高知に戻ってきてもらいたい。高知に魅力を感じて来てもらいたい。ここに力を入れていかなければならないと思っています。

子育て支援というところで、私が手掛けたのが、まずは医療費の無償化を中学生まで拡充。他の市町村は、中学生は医療費は無償化で、来年から高校生までが無償化になるような状況ですが、高知市は子どもの数が多く、今は中学生までで精一杯です。それでも、中学生のいる世帯の方々にはすごく喜んでいただいています。

そして、やはり人を増やすためには結婚してもらわないといけないということで、結婚の支援制度も入れました。実は結婚をしない、したくない理由の第一が経済的理由です。結婚すると2つの家が1つになるため、引っ越し費用、敷金、礼金、家賃負担といったことが、今の若い人たちの結婚をしない理由の上の方にあります。ですから、そういったところを少しでも和らげるために、年収500万円以下、39歳以下という縛りがありますが、30万円の結婚支度金を、国と市の事業を併せて行います。

次が奨学金の返還支援で、ほとんどの大学生、専門学生

は奨学金をもらって学んでいるため、卒業と同時に返済をしなければなりません。大体300万円から400万円の奨学金を背負っていますので、これも県市連携の中で、年間30万円を限度にし、県が10万円、市が10万円、手を挙げた企業が10万円、それを6年間、180万円を支援をしていこうとしています。また、中学生のときにはお金がかかりますので、祝い金を出しました。

ただ、これだけを聞くと、皆さん方はバラマキじゃないかと思われるかもしれませんが、結婚から子どもが生まれて、育てて社会人にしていく政策を打つとき、支援が切れ目なくあれば効果が上がるということで、切れ目のない子育て支援を組んでいます。安心して高知に住み続けることができるためには、子育てしやすい町をどうつくっていくのが求められており、今年是这样した支援を行ったところです。

一方、高知市から出ていきたいという人たちもいます。その理由の第一は災害です。地震が来るから高知市からは出ていきたい。ここも何とか食い止めていかなければなりません。今は、国の方で浦戸湾の3重防護をしていますが、これが令和13年に完成するとL1クラスの南海トラフ地震であれば、津波は入ってきません。ただ、地震が起きたときはL1なのか2なのか分かりませんので、絶対に逃げてください。こういった防護をすることで、津波が来なくなることもありますので、ハード事業にはしっかりと努めていきたいと思っています。

皆さんの住宅もしっかり守らなければなりません。能登半島地震の後、住宅耐震化事業を4億6,000万円ぐらいかけて行いましたが、一気にその予算もなくなりました。8月には巨大地震情報があり、また5億円近くをプラスして、市民の皆さんの安全は守っていこうと考えています。

さらに、活気ある町。若い人が活躍する場をどのようにつくっていくのかも、若い人たちが残る大きなきっかけになると思います。今、いろんなところでイベントを行っており、いつも多くの人たちが来て、若者たちが生き生きとしています。そういったものも支援をしていきます。また、近年、多くの観光客、インバウンドの人たちも来ています。今年度の事業で、はりまや橋商店街から追手筋、大橋通りまでの2.1キロの商店街、あるいは西敷地や東洋電化中央公園などにもフリーWi-Fiを完備して、若い人たちが滞在できるような、活力のある町もつくりたいと思っています。

ならば、高知市にお金はあるのかということですが、大変厳しい状況です。96~97%が人件費や借金の返済など義務的経費で、使えるお金は少ないわけですが、その中でどうにかスクラップ&ビルドをして、新しいものを生み出すように指示をしているところです。また、今は税金を上げられる状況ではありませんので、少ない予算、財源不足をどう補うか。先日のネーミングライツなど市民の皆さん方のご協力をいただきながら、維持管理に努めます。





さらに、ふるさと納税も強化しなければなりません。2年前、高知市は6億円。須崎は30億円、芸西村は20億円を超える中で6億円はあまりにも少なすぎます。去年は8億円、今年は10億円以上を目標に、一番大事な中間委託業者も今年を変えて、新たな態勢を組んで、ふるさと納税をすることで、皆さんにも活力が生まれる、そんな好循環が生まれるようにやっっていこうと思っています。今の調子でいけば12億円ぐらいまでいくなと思っていますが、皆さんにもたくさん

の方をご紹介いただきたいと思います。

厳しい状況ですが、夢と希望が持てる高知市、子どもたちの笑い声や笑顔がはじけ飛び、それが高齢者や働く皆さんを勇気づける。そして、各世代が分断することがないような高知市を、皆さんと一緒につくりたいと思いますので、これからも市政に関心を持っていただけますよう、お願い申し上げます、私からの話とさせていただきます。ありがとうございました。



◇ 例 会 変 更 ◇

高知東RC	10月30日	休会(阪)	高知ロイヤルRC	11月 5日	休会(高)
高知南RC	11月 7日	創立記念夜間例会(阪)	高知西RC	11月 8日	休会(三)
高知北RC	11月11日	休会(三)	高知北RC	11月18日→11/16(土)	夜間例会に振替(三)
高知南RC	11月21日	休会(阪)	高知中央RC	11月21日	休会(城)
高知西RC	11月22日	休会(三)	高知中央RC	11月28日	職場例会(城)

※例会場ホテル：(三)…三翠園 (城)…城西館 (阪)…ザ クラウンパレス新阪急高知 (高)…高知プリンスホテル

 **ニコニコ箱** 【敬称略】

- 入交 章二 BCPの一環で、自宅を3階から同じマンションで同じ間取りの8階の部屋に引っ越しました。尾木謙三さんにお世話になりましたのでニコニコします。少し景色が広がり、桑名市長がおいででの市役所が見えるようになりました。
- 中田 由季 } 先日の丸山台イベント「自由民権150年土佐流宴 ～丸山台で継承する板垣退助の思い～」へ、桑名市  
宮地公美子 } 長はじめご参加いただきました皆さま、おかげ様でお天気にもめぐまれ盛会となりました。誠にありが  
荒井奈々絵 } うございました。明日午後6時15分からテレビ高知「からふる」にてイベントの様子が放映されますので、  
こちらもぜひご覧ください。
- 隅田 和稔 妻の誕生日に素敵なお花をありがとうございました。ロータリークラブのおかげで妻の誕生日をスルーしてしまおうというトラブルを回避できています。感謝しています。
- 右城 猛 今日、妻の誕生祝いのお花が届きました。ニコニコします。
- 寺田 文彦 結婚6年目の祝いをしていただき、誠にありがとうございました。男の子2人、子育て真っ最中です。妻も仕事を続けながらよく取り組んでいるなと感心しています。これからも、力を合わせて子育てを楽しみたいと思います。加奈さん、いつもありがとう。

◇ 出 席 率 ◇

	総数	出席	欠席	メイキャップ	出席率
10月15日	(-7)85	60	15	4	81%
10月 1日	(-6)85	54	7	18	91%

● 累計額 [10月15日現在]

ニコニコ箱	355,850円	ロータリー <small>さんさん</small> 燦燦基金	78,514円	ポリオ募金	132,300円
-------	----------	--------------------------------	---------	-------	----------

■ 次週のプログラム [11月 5日]

ゲストスピーチ  
 (株)光テック 取締役  
 夕部 美子 氏  
 「“プラスワン”で、うんと素敵に見える  
 リフォームコーディネータ術」

創 立 昭和12年10月  
 例 会 日 火曜日 12:30~13:30  
 例 会 場 三翠園ホテル TEL(822)0131  
 事 務 局 高知市本町3丁目3-39 高知放送南館8階  
 TEL(824)8660 FAX(824)2529  
 E-mail shinairc@joy.ocn.ne.jp  
 HPアドレス <http://www.221.ne.jp/kochirc/>